

# 材料の特性に着目した工芸学習の実践

## 陶芸における粘土の状態変化と工程のつながり

工程の多い工芸学習ではそれぞれの工程での気づきや学びに加え、工程の流れとつながりにおける気づきや学びが期待されます。本実践では工芸の中でも比較的安全に年齢を問わず取り組める陶芸を行いました。陶芸の材料となる土粘土は、自然物であり、可塑性に優れ、手で容易に形を変えることができます。また、含まれる水分量によって硬さや状態が異なり、触覚的にも視覚的にも変化します。さらに焼成することで“やきもの”となり日常で利用できる堅牢さを得ます。つまり、陶芸の材料である土粘土は工程が進むにつれ状態が変化するという特性があります。また、釉薬を使用することにより、「本焼」における変化が大きく増します。

本実践では、この土粘土が工程を経て変化していく様子を園児と中学生が体験学習しました。園児、生徒がこれらの活動を通して得る気づきや学びを明らかにし、工芸学習におけるより良い環境設定や題材を模索したいと考えています。

導入として、幼稚園では陶芸の前に約600kgというたくさんの土粘土で自由にあそぶ時間を設け、中学校では何をどんな目的でつくりたいかデザインしてからつくり始めました。素焼きと本焼きは大学にて行い、その様子は動画で紹介しました。

## 活動内容と考察

幼稚園

### 600kgの土粘土で自由にあそぶ

- 土粘土の感触を味わいながら、全身を使って遊ぶことを楽しむ姿
- 友だちと協力して作り上げる姿
- 手指を使った細かい活動

↓  
それぞれが自分のやりたいことに向かう中で、いろいろな粘土操作、丸める、ひねり出す、伸ばす、叩いて広げるなど、が自然に引き出されていく



### 頭や膝に乗せて器の形に

- 修了記念の制作であったことから、園庭にある自分の好きな自然物をつかった模様付け
- それぞれがイメージをもって器の形をつくったり、模様を付ける

↓  
自分が納得できるものをつくりたいとこだわり、何度も“つくりつくりかえる”ことを楽しむ



### 液体の釉薬に素焼作品を沈める

- 素焼の器にそっと触れ、形をつくった時との感触の違いに驚く姿
- 活動前に、釉薬の色が変化することを教わり、何度も色を確認しながら選んだり、「なんでかな？」と保護者と会話する

↓  
土粘土の変化に興味を持ち、保護者や友達と一緒に焼き上がりに期待を寄せる



### 親子で鑑賞会

- 自分の作品を見つけると、「こんな風になった！」と嬉しそうに保護者に知らせる
- 形づくりや模様付けについて、作品を見ながら取り組みを振り返ったり、友だちの作品を見ながら会話を楽しんだりする様子
- 器を両手で大切に持ち、自分の作品に思いを寄せながらじっくり見つめる姿

↓  
作陶の活動や自分の作品への満足感



導入

成形

乾燥・素焼

施釉

本焼

鑑賞

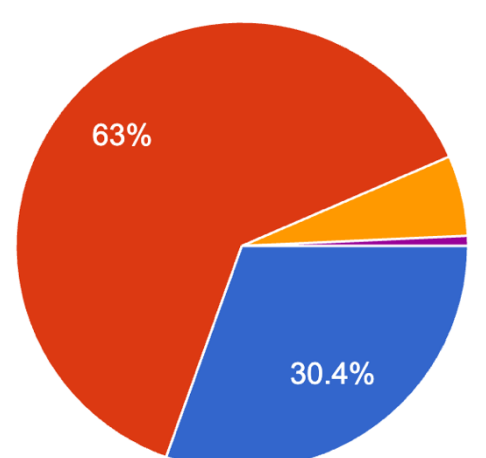
中学校

### 土を触りながらのデザイン

- 魚の干物用のお皿を、カマスイメージしほぼピッタリのサイズで作りました。
- 粘土をこねてるうちにコップを作ろうと思ひ。取手と飲み口を工夫しました。



作品紹介シートより



授業後のアンケートより  
「何をつくるかいつ決めましたか？」

### 乾燥による硬さの違い

- 1時間授業×2回での成形により土粘土が乾燥し硬さの違いが生じる

↓

“考えたデザイン通りにできない”“時間が足りない”ことからの工夫とその中で生じる表現の広がり



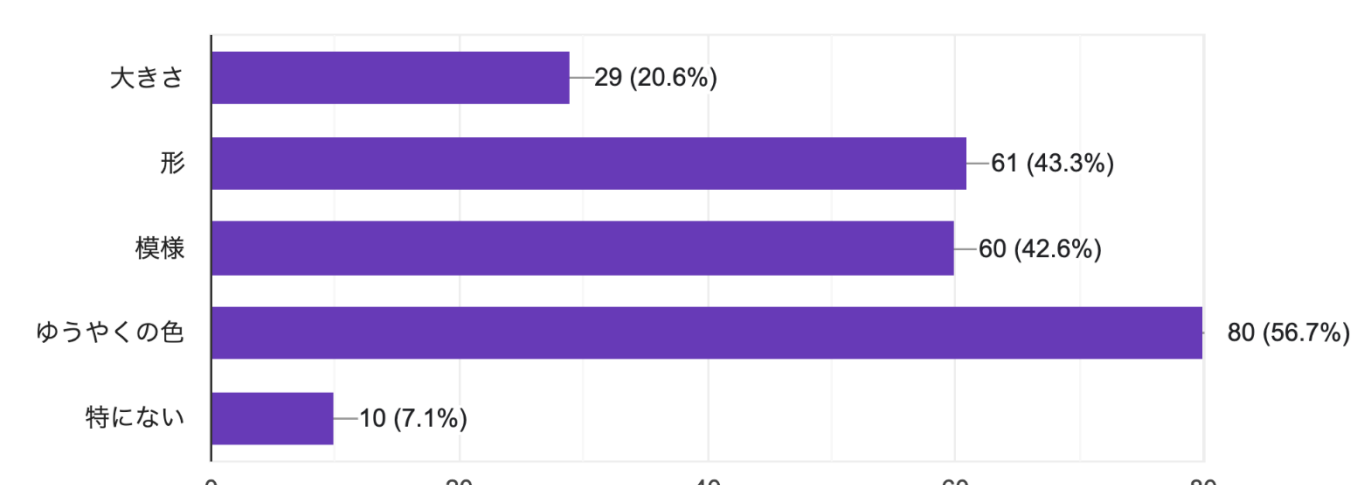
「1回目で作った皿を割りカップにつくり変える」

### 焼成後の変化の大きさ

- 工程を振り返った上でやり直したい工程がある生徒97%
- 特に釉薬についてやり直したい生徒が多い

↓

「焼成」工程における釉薬の変化を想像し難く、“思った通りにできなかった”“次はもっとこうしたい”という思い＝省察による学び



授業後のアンケートより  
「やり直すとすれば？」（複数回答可）

### 学習経験の有無による満足度

- I：小学校にて「成形」「施釉」経験あり
- II：小学校にて「成形」経験あり
- III：小学校にて陶芸学習の経験なし

- 学習経験の有無によって、完成作品の満足度における「形」と「模様」に有意差あり

↓

1度目の体験での気づきや学びが  
発展的に生かされる＝繰り返し学習の必要性

完成品の満足度は？	I n=31	II n=58	III n=52	有意確率
大きさ	4.4±0.8	4.1±1.0	4.0±0.9	0.053
形	4.2±1.0	3.5±1.4	3.4±1.3	0.033*
模様	4.1±1.0	3.4±1.2	3.6±1.1	0.020*
色や艶	3.2±1.4	3.2±1.4	3.4±1.3	0.721

平均値±標準偏差 \*：p<0.05

アンケートの統計分析結果（3群の比較）

## 今後の課題

### 【幼稚園】

園児にとって、柔らかい土粘土が器になった驚きと各工程での発見は大きかったです。染色の活動も行いましたが、陶芸同様、最終工程後の染め上がり方に驚きと発見が多くありました。周りの友だちと出来上がった作品を介して会話が進み、つくることへの思いが共有できました。

「つくりたいものをつくる」上で、自分の意思で選んでその活動に没頭できる環境設定が重要となります。園児が活動に没頭できるよう、材料等の数や量を調整する重要性が明らかになりました。



「染色の完成作品」

### 【中学生】

生徒は皆、工程の見通しを持って活動に取り組んでいました。使う目的や形模様などをデザインし、途中で変える生徒もいましたが、思い通りにできない中で工夫が多くみられました。

「焼成」については生徒の手から離れて進む工程ですので、焼成後の作品についての気づきが多く、どうすれば良かったか振り返ることに繋がり、そこに陶芸学習ならではの学びが生まれました。焼成過程は動画で説明をしましたが、実際に体験することが重要であると考えます。



「焼成についての説明画」